
Chapter 12

他動詞の使い方② 活用した動詞

P に活用した動詞を使う

SVO-[be]-doing

SVO-[be]-to do

SVO-[do]-do

SVO-[be]-done/-ed

SVO-have-a do

do と **to** は表裏の関係になっている

[do] と to は音韻的に「有声(ドウ)・無声(ツウ)」というように対照の関係になっています。

do が隠れると 「今的事实」を表します。

do が現れると 「これから絶対にする」という「話し手の主観」が表れます。

to が現れると 「これからそちらに向かって行って [必ず] することになっている ⇒ これからのこと」

を表します。

do と to の持っている言葉の意味に従って使い分けをします。

■ 補助的な他動詞の使い方 : P に活用した動詞を使う

Chapter8で「いろいろな言葉 : □□」をPで使う「補助的な他動詞の使い方」を説明しましたが、本章では、「活用した動詞」がPで使われる様子を見てみます。

このような文は do/be/have のネクサス文です。

■ have + 人 + 活用した動詞

「人に～させる」とか「物を～にしておく」という表現は、have が基本のロジックを表し、「させる動作や行為の内容」は、叙述語(P)の「活用した動詞」で表します。

I will have my son going to curling practice at the gymnasium.

私を持つつもりなのは私の息子が通っているように、カーリングの練習に向かって、[それは] その体育館にです。
⇒ 息子をカーリングの練習に体育館に通わせるつもりです。

I will have my son take part in this activity.

私を持つつもりなのは私の息子が参加するように、この活動にです。

I will have my son trained to go to the gymnasium by himself.

私を持つつもりなのは私の息子が訓練されて、行けるようにその体育館に、[それは] 自分自身の力です。
⇒ 息子が一人で体育館に行けるように訓練する。

■ 「have + 人 + 活用した動詞」の言葉のつながり方

「相手に～させる動作や行為」を、do か be のロジックで結びつけて叙述語(P)として使います。

① S have 人 [be] doing

Sが持っているのは、人が doing しているように。

② S have 人 [do] do * to do は使わない

Sが持っているのは、人が do するように。

③ S have 人 [be] done/ -ed

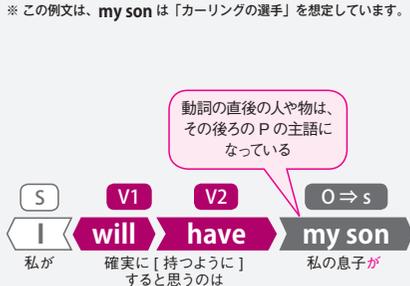
Sが持っているのは、人が done になるように。

■ have 人 do : [×] to do は使わない

「人に～をさせる」という時、「have+ 人 + 動詞」で、Pに [do] do(動詞の原形)を使います。それは「人が～するのを、その時点で支配している」という意味にしたからです。to do にすると「これからさせる」になり、その時点で支配していること(使役)になりません。このような O [do] do の do を通常「原形不定詞」と呼んでいます。

have + 人 + 活用した動詞

※ この例文は、my son は「カーリングの選手」を想定しています。



※ 日本語の「させる」という意味は、S-V-O-P という「語順と have」が表している

他動詞の使い方の O-P の関係は、判断詞 : [do] · be · have が隠れた、1つの文になる。

O=s-[v1]-v2-o[p]



be/do のネクサス

- [v1] doing P P ⇒ v2 : 活用した動詞
- [is] laughing all the way to the stadium
笑っているように、途中ずっと、その競技場に向けて
⇒ 息子を笑わさせておく
- doing
- [is] practicing his new skills
練習しているように、彼の新しい技術を
⇒ 息子に新しい技術の練習をさせておくつもりです
- do[原形動詞]
- [do] come early to the stadium
早く行くように、競技場に
⇒ 息子を競技場に早く着くようにさせる
- do[原形動詞]
- [do] explain his condition to the coach
彼の体調を説明させる、コーチに
⇒ コーチに息子の体調を報告させる
- done/ -ed
- [is] interested in curling
興味を持つように、カーリングに対して
⇒ 息子にカーリングに興味を持つようにさせる
- done/ -ed
- [is] pleased with the new brush
新しいブラシが気に入るように
⇒ 息子に新しいブラシを気に入るようにした

* to do は使えない

■「目の前で起きていること」：P に doing を使う

話し手の「目の前で人がやっていること」について述べるときは、叙述語(P)に doing を使い 動詞+人+ doing になります。この使い方は、人 is doing がもとになっており、「目前の人」がやっていることを表すので、口語で使うことが多くなります。また、「習慣的に繰り返しやっている行為」にも使います。doing が「4つの意味(起⇒承⇒結⇒繰り返し)」を表すからです。

【用例】

I saw my son playing aggressively in the game.

私が見たのは、私の息子が演じている様子、生き生きと、【それは】その試合の中でです。

I won't have you saying such things about my son.

私が見つもりがないのは、あなたが言っているのを、そんなことを、【それは】私の息子についてです。⇒ 言って欲しくない

■「人が～しているのを感じる」：(知覚動詞と呼ばれる)

目の前で起きていることを「見たり、聞いたり、感じたり、分かたり」する時はこの表現になります。

【語例】

see…見える	hear…聞える	feel…感じる
listen to…聴く	look at…見る	watch…見守る
smell…においがする	notice…気がつく	catch…つかまえる
find…見つける	perceive…気づく	

■「人が～しているようにさせる」：(使役動詞と呼ばれる)

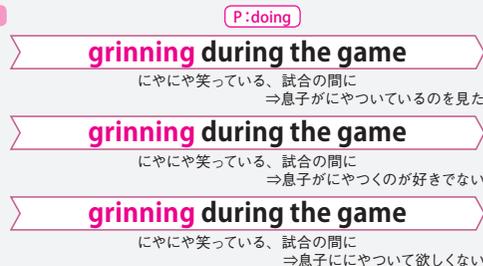
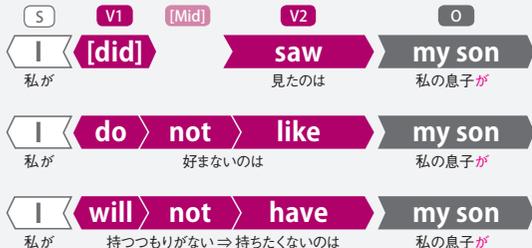
「～しているようにさせる」という意味にするには have や get がよく使われますが、他の動詞もこの意味で使うものがあります。

【語例】

set…～を…させる	keep…～を…させておく
leave…～を…させておく	start…～に…し始めさせる
hold…～に…させておく	

have 十人十活用した動詞

* この例文は、my son は「カーリングの選手」を想定しています。



be のネクサス

■ like, want 「人に～をして欲しい」

want や like は「人+動詞の活用形」で「～して欲しい」という意味を表し、肯定文では to do がよく使われますが、否定文には doing がよく使われます。

【比較】

I want my son to play aggressively in the game.
I don't want my son playing poorly in the game.

私が見たいのは私の息子が必ず演技するのを、活動的にと、【それが】その試合の中で。
私が見たくないのは私の息子が演技しているのを、だからだと、【それは】その試合の中で。

「人に～して欲しい」と言う場合「want 人 to do」で to do を使うのは「これからやる」ように要求するからです。

「望まない」と言う場合に doing になることが多いのは「もう既にやっていること」に対して言うことが多いからです。「これからやって欲しくない」なら to do になります。

■ like/want 人 doing と like /want 人 to be doing

「like/want 人 doing」の使い方、doing の前に to be が付くことがあります。

【比較】

I don't want you using your cellular phone while I am watching TV.
I don't want my son to be using his cellular phone while I am watching TV.

「私が見たくないのは、あなたが携帯電話を使っていること、【それが】どんな間かという、私が TV を見ている間。
⇒ お前に携帯電話を使っていもらいたくない。

「私が見たくないのは、息子が携帯電話を使っているようなことになること、【それが】どんな間かという、私が TV を見ている間。
⇒ 息子に携帯電話を使っていもらいたくない。

目の前で起きていることなら using をそのまま使い、一般的に起きがちな事柄として言うときは to be を入れて to be using にします。

12-03 動詞+人+ done/ -ed

人が done/-ed 受動になっているようにする

■ 「目の前でされたこと」: P に done/ -ed を使う

「人や物が～されること」に対する話し手の判断を表すには、O-[V1]-P に done/ -ed を使い

動詞+人+ done/ -ed の形で表します。元の表現は人 is done/ -ed で受け身の意味です。

I heard the national anthem sung by the soprano at opening celemony.

私が聞いたのは、国歌が歌われたのを、そのソプラノ歌手によって。

The song got the audience extremely excited.

その歌が得たのはその聴衆が非常に興奮した状態。

■ 「人が～されたと感じる」: 知覚動詞

「人が～された」の「見たり、聞いたり、感じたり」する時は、この表現になります。

■ 「人や物が～されているようにする」

また、「人を～されるようにする」という意味の時は have や get を使いますが、他に make (～を ... されるようにする)、keep (～を ... されたままにしておく)、leave (～を ... されたままにしておく) なども使います。

また like, want, need, find などこの形で使います。



be のネクサス

■ 動詞+物+ done/-ed : いろいろな動詞を使う

I will get the report finished in an hour.

私が得るつもりなのは、そのレポートが終わっているのを、1時間以内に。

I found my brush broken into pieces.

私が気づいたのは、私のブラシが壊されているのを、バラバラに。

I need my brush fixed within a week.

私が必要なのは、私のブラシが修理されているように、一週間以内で。

■ make oneself done/ -ed

make oneself done/ -ed は「自分自身が～されるようにする」という意味です。oneself は「S と同じ人を対象語 (O) で使う言葉 (再帰代名詞)」です。「熟語 (イディオム)」とされている用例に、make oneself heard(自分の声/意見が聞こえるようにする) と make oneself understood(自分の意見が分かるようにする) などがあります。

【用例】

I couldn't make myself heard to my son because of the noisy crowd.

私が作ることができなかったのは、私自身が聞こえるように、なぜならうるさい群衆だったから。

⇒ 群衆がうるさく私の声が聞こえさせられなかった。

I will make myself understood by my son before the game.

私が作るつもりなのは、私自身が理解されるように、私の息子によって、【それは】試合の前に。⇒ 試合前に私の言い分を分からせるつもりです。

ただ、これらの用例は特殊なものでなく、「自分自身を□□にする」という英語の一般的な表現です。make oneself □□ (P) 全体で「自分のことを表す (自動詞)」のように使い、P には「いろいろな言葉 : □□」を使います。

■ make oneself □□ : □□にはいろいろな言葉を使う

make oneself a valuable person 自分を価値ある人にする

make oneself a name 自分を有名にする

make oneself a cup of tea 自分にお茶を入れる

make oneself busy 自分を忙しにする

make oneself calm 自分が落ち着く

make oneself at home 自分がくつろぐ

make oneself ahead of the rest 他人に先んじる

make oneself look good 自分が好印象を与えるようにする

make oneself feel clever 自分が利口になった気になる

※ make □□ の使い方は、make oneself □□ の oneself が慣用的に抜けた使われ方とされています。

【参考】Enjoy yourself!(楽しんでください) という慣用表現は、後ろに having a good time が省略されています。

■ 「人に～させる」：P に do(原形) を使う

既に説明したように、人 [do] do を元に「動詞+人+ do」の形で、「人に動作や行為を、事実としてさせる」という使い方があります。[Chapter 8-05 参照]

I had the team go through hard work.

私が出したのはそのチームが動いて厳しい練習を通過していくように。

■ 「～させる」と言うときには have、make、let を使う

「させる」という意味で「動詞の原形」を使うのは、have、make、let、help の4語だけです。他の動詞は to do を使います。help は [do] do と to do のどちらも使います。

have(持つ)	客観的表現
make(作る)	主語の意図が強く働く
let(認めてさせる)	目的語の意志に従って許してさせる

<p>(S) (V1) (V2) (O⇒s)</p> <p>I will have my son</p> <p>私が つもり 持つ 私の息子が</p>	<p>[do] (P: do)</p> <p>practice seriously</p> <p>練習する、真剣に ⇒息子が真面目に練習させるつもりです</p>
<p>(S) (V1) (V2) (O⇒s)</p> <p>I [did] made my son</p> <p>私が 作った 私の息子が</p>	<p>[did] (P: do)</p> <p>practice seriously</p> <p>練習する、真剣に ⇒息子が真面目に練習するようにさせた</p>
<p>(S) (V1) (V2) (O⇒s)</p> <p>I [did] let my son</p> <p>私が 自由にしたのは 私の息子が</p>	<p>[did] (P: do)</p> <p>practice seriously</p> <p>練習する、真剣に ⇒息子の自由意志に任せて真面目に練習するようにさせた</p>

do のネクサス

この言い方は「O が do するのを持つ／作る／認める」という表現で、「O が do する」ことを「決まった事実」として表すので「強く支配している」という意味になります。通常これらの動詞だけを「使役動詞」と呼んでいますが、他の動詞も「叙述語(P) させる」という意味になる場合がたくさんあります。同じ SVOP というロジックで意味を作っているからです。

■ 「見たり、聞いたり、感じたり」も、動詞の原形を使う

「人が～する」の「見たり、聞いたり、感じたり」するのも「動詞+目的語+ do」になります。

【語例】

see…見える	hear…聞える	listen to…聴く
look at…見る	watch…見守る など	

このような動詞を「知覚動詞」と呼んでいます。

<p>(S) (V1) (V2) (O⇒s)</p> <p>I [did] saw my son</p> <p>私が つもり 見たのは 私の息子が</p>	<p>[did] (P: do)</p> <p>practice seriously</p> <p>練習する、真剣に ⇒息子が真面目に練習するのを見た</p>
<p>(S) (V1) (V2) (O⇒s)</p> <p>I [did] heard my son</p> <p>私が 聞いたのは 私の息子が</p>	<p>[did] (P: do)</p> <p>practice seriously</p> <p>練習する、真剣に ⇒息子が真面目に練習している音を聞いた</p>
<p>(S) (V1) (V2) (O⇒s)</p> <p>I [did] watched my son</p> <p>私が 見たのは 私の息子が</p>	<p>[did] (P: do)</p> <p>practice seriously</p> <p>練習する、真剣に ⇒息子が真面目に練習することをじっと見た</p>

do のネクサス

12-05 動詞+人+ to do

人が、これから必ず~するようにする

■「人に、これから~させる」: P に to do を使う

相手に「動作や行為を、望んだり頼んだり」する時は、相手は「これから~する」わけですから、叙述語(P)に「これから必ずする」という意味の to do を使います。動詞+人+to do は、人 is to do が元になっています。

【用例】

I want the team to go through a hard time.
私が望むのはそのチームが、これから必ず困難な時を通過していくように。
I asked the coach to train my son strictly.
私が頼んだのは、そのコーチが必ず訓練するように、息子を、厳しく。

■「人に、これから必ず~させる」時に使う判断語

頼んだり、命じたり、教えたりして「人に~させる」時はこの形を使います。get(させる)が基本の動詞です。

【語例】

want...~して欲しい	would like...~できることならして欲しい
tell...~するよう言いつける	force...強制する
ask...~するよう頼む	beg...懇願する
order...~するよう命じる	allow...~するのを許す
teach...~するよう教える	advise...~するよう助言する
wish...~するのを望む: 硬い表現 など、	

<p>S V1 V2 O⇒s</p> <p>I will get my son</p> <p>私が つもり 得るつもりなのは 私の息子が</p>	<p>[is]</p> <p>P: to do</p> <p>to practice seriously</p> <p>練習する、真剣に ⇒息子が真面目に練習するようにするつもりです</p>
<p>S V1 V2 O⇒s</p> <p>I [did] told my son</p> <p>私が 言ったのは 私の息子が</p>	<p>[was]</p> <p>P: to do</p> <p>to practice seriously</p> <p>練習する、真剣に ⇒息子が真面目に練習するように言った</p>
<p>S V1 V2 O⇒s</p> <p>I [did] advised my son</p> <p>私が 助言したのは 私の息子が</p>	<p>[was]</p> <p>P: to do</p> <p>to practice seriously</p> <p>練習する、真剣に ⇒息子が真面目に練習するように助言した</p>

be のネクサス

【用例】

My son asked me to buy a new brush.
私の息子が頼んだのは、私が買うように、新しいブラシを。
My wife allowed our son to go out late at night.
私の妻が許したのは、私達の息子が外出することを、夜遅くにです。
I taught my son to behave well in any situation.
私が教えたのは、私の息子が行儀良く振る舞うように、どんな状況でも。
I expect my son to behave well in any situation.
私が期待しているのは、私の息子が行儀良く振る舞うように、どんな状況でも。

■これらの形が2重に使われることもあります。

The coach recommended me to teach my son to behave well.
そのコーチが薦めたのは、私が教えること、[それは]私の息子が行儀良く振る舞うように。

■叙述語(P)が、[do] doか、to doか

叙述語(P)を [do] do にするか、to do にするかはO-[V1]-Pの内容と、話し手の判断によります。

■[×] hope +人+ to do の形は使わない

want(望む)や wish(欲求する)と同じような意味ですが、hope(希望する)は、人 to do の形では使えません。

【比較例文】

〔×〕I hope my son to win the gold medal.
〔○〕I want my son to win the gold medal.
私が望むのは、私の息子が、必ずその試合で勝つこと。

日本語だと言えそうなのですが、Verb my son [is] to win(息子が必ず勝つように Verb する)という「必ずする」の意味を持つので、hope(希望すること)と馴染みません。ですから、後ろのO-[V1]-Pの[V1]に will や could などの「話し手の気分的な確率判断」を表す言葉を入れて使います。逆に want はこの形で使えません。

〔○〕I hope [that] my son will win the gold medal.
〔×〕I want [that] my son will win the gold medal.
私が希望するのは、私の息子が確実に勝つようになる、その試合で。

※ will や could は「話し手の主観的判断」を表す言葉で、「どれくらい確率で起きて欲しいと思っているか」を表します。

[Chapter 11-12 参照]

人が□□であることを持つ
⇒ □□にする

have の補助的な他動詞の使い方のまとめ

have は「補助的な他動詞の使い方」の基本ロジックを表す言葉です。

「変化の様子や仕方」を表さず「持っている」という「静止して支配している状態」を表し、無色透明に「～させている」という意味だけを表します。

have O-[V1]-P で、「『OがPする／である』を持つ」と表現します。

叙述語(P)にはいろいろな言葉が使われますが、「静止している、支配している」という意味から、使う言葉の内容に制限があります。

have の補助的な他動詞の使い方を使わない言葉

have + 目的語(O)の後ろでは下記のような「名詞」は使いません。

- × I will have my son a hug and kiss. (一つの行為)
- × I will have my son a professional golfer. (職業)

物や事柄を「持たせる ⇒ 与える」なら、give を使います。人を「～の職業や地位の状態にする」のなら make を使います。形は同じですが、内容によって動詞を使い分けます。

- I will give my son a hug and kiss. (xoxo)
- I will make my son a professional golfer.

have + 人 □□

v1は隠れている

P P ⇒ v2: いろいろな言葉



O-Pの関係は s-v2の関係

I have

人 [v1] 叙述

「have + 人 + □□」のとき、「□□」に、「職業や地位、物(名詞)」や「感情・様子」は使いません。これらの内容は、静止した状態で支配できないからです。to do も「これからすること」なので使いません。

- [was] → ready to go out for sales
用意できている 営業に出る
- [was] → away from the headquarters
離れている 本社から ⇒ 追い出した
- [was] → out of the room for a while
外に出ている 部屋から しばらくの間
- [was] → in an argument with his friend
議論の中にある 彼の友達と一緒に
- [was] → on our team for the project
付くように 私たちのチームに そのプロジェクトのために
- [was] → walking all the way to the office
歩いている すべての道を その事務所に行く
- [was] → brought out of the room
連れて出させた その部屋から ⇒ その部屋からトモを連れ出した
- [was] → examined by a physician
検査を受けさせる 内科医によって
- [did] → prepare for the sales campaign
準備させる その売り出しキャンペーンのために
- [did] → clean up his desk after work
きれいに[する] 彼の机を 仕事の後に

be/do のネクサス

* to do と a do は使えない

■ get +人+ □□ の補助的な他動詞の使い方

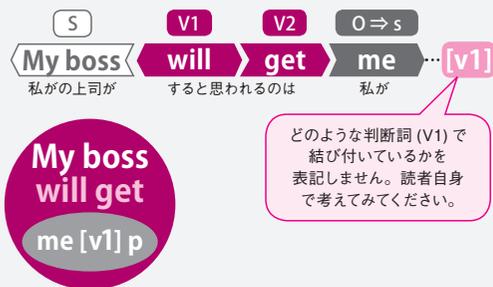
have と同じように、補助的な他動詞の使い方でもよく使うのが get です。

「get +人+□□」は、「人を□□にする」という基本表現です。

「人」の後ろの「□□」が「日本語に訳したときの述語の内容」(叙述：P)になります。

「□□にする」という日本語には、get自体の意味はほとんど出てこないのは get が「□□の状態を手に入れる」という「無色透明な意味」だからです。

目的語(O)と、□□(P)の内容によって「いろいろな日本語」になります。組み合わせによっては、「人に□□させる」という「使役」の意味にもなります。



どのような判断詞 (V1) で結び付いているかを表記しません。読者自身で考えてみてください。

get は「変化だけ」を表し、感情が入らない「無色透明な言葉」なので、あらゆる場面で使えます。日本語の「なる」「する」があらゆる場面で使われるのと同じです。このような「補助的な他動詞の使い方」をする場合、「叙述：P」に使う言葉には「品詞的な制限」がほとんどありません。

唯一使うことができないのは「[do] do (動詞の原形)」です。「人に~をするようにする」という意味で動詞を使う場合は「to do」を使います。これは、get が「新しい状態に変化する」という意味なので「これから必ず変化するようにする：to do」と表現しないと意味が不明になるからです。

「人に、話者が強制して事実として~させている」というときは make(作る ⇒ 創る)を使います。

人 (S) の意志を表すか表さないかが、make と get の使い分けの基準です。

「補助的な他動詞の使い方」をすると、知覚動詞以外はそのような動詞が使われていても「人を P(□□)の状態にする」=「~させる」という「使役」の意味が入っています。そして、「させるときの、変化のさせ方」や「様子や方法」、「発話者の気持ち」を、動詞が表します。

英語は、先に「話し手の判断」を言い、その後ろで「その内容を、一つの文で言う言葉」なのです。SVOP の1文型の O-P の内容に合わせて「判断を表す動詞」を入れ替えて使っています。

- P ⇒ v2 -o [-p]
- lots of sympathy (たくさんの共感を [持つように])
 - a promotion (ひとつの昇進を [持つように])
 - closer (より近づくように) to the goal (そのゴールに向かって)
 - wrong (間違っているように) about what I said. (私が言ったことについて)
 - into trouble (もめ事の中に入れていくように) with the law (法律 [問題] を伴って)
 - through the tough times (困難な時を乗り越えて出ていくように) with his support (彼の支えを伴って)
 - back up (戻ってきて上がった状態になるように) in the position (その地位の中に入っているように)
 - out (外にいる状態になるように) of my troubles (私の問題事に関して)
 - moving (動いている状態になるように) in the right direction (正しい方向の中に入っていて)
 - thinking (考えている状態になるように) of a bright idea (素晴らしい発案に関して)
 - to think (これから考えるように) of a bright idea (素晴らしい発案に関して ⇒ その妙案を考えるようにし向けた)
 - started (始めさせられた状態になるように) on a new project (新しいプロジェクトに向けて)
 - fired (解雇された状態になるように) unreasonably (理由も無しにです)
 - a visit (ある訪問を受けるように) from the FBI (FBI から)
 - a leave (ある離れることになるように) of absence (欠席に関して) for one week (一週間に向けて) です

* 原形動詞は使わない

be/have のネクサス



P ⇒ v2 - o [-p]

a cup of coffee

コーヒー1杯を [持つように]

[is]

a national heroine

国家的な女英雄に [なるように] です

[is]

[do]

[feel] happy with her current position

満足しているのが、今の位置 (地位) に関して です

[is]

[do]

[go] away from the crowd

離れていられるように、人込みから です。

[is]

[do]

[go] ahead of the other medal hopefuls

前に進めたのは、他のメダル候補者に関して

[is]

in love with skating

好きになるようにしたのは、スケートと一緒にいて

[do]

work very hard to win

厳しい練習をする、勝つために

[is]

refreshed with a short nap

気分転換させた、昼寝で

[do]

go skating ... / go camping ...

スケートをしに行かせる / キャンプをしに行かせる



to do

「これからすることになっている行為」には使わない



make の補助的な他動詞の使い方

have, get の次に、「補助的な他動詞の使い方」でよく使うのが make です。

make □□は「意図的に新しく□□の状態を作る」という意味で、「make +人 +□□」は、「人を、意図して新たに□□の状態にする」という「主語の意志で□□にする」という意味になります。

get より「強制力の強い言葉」です。この意味から「させられる人」の後ろで使う叙述語 (P) の内容に制限があります。「意図的に働きかけて、新しい状態に変化させて作り上げるようにできない事柄」では使いません。

do/be/have のネクサス